

# アセセワ・イエジ地区 電化計画( 1 / 2 )

## 実施地域

イエジ、アセセワ地区



## 1. プロジェクト要請の背景

ガーナ政府は、国家開発政策の一環として2020年までの全国電化を目標とした国家電化計画を策定し、全国110か所の郡都の電化が進められている。

アセセワ地区はイースタン州における第二の商都で、ガーナ屈指の大市場地であるが、電化された郡都から離れており、全国主幹配電線への接続費用が高いため、これまで電化されずにいた。同地区の電化は、食糧・農業生産の振興と、近隣地区への流通増大という点から重要であるため、ガーナ政府は我が国に対し、同地区の電化に関する無償資金協力を要請した。

## 2. プロジェクトの概要

### (1) 協力期間

1996年度

### (2) 援助形態

無償資金協力

### (3) 相手側実施機関

鉱山・エネルギー省、ガーナ電力公社( ECG )

### (4) 協力の内容

#### 1) 上位目標

アセセワ地区の住民の生活水準が向上する。

アセセワ地区において産業が活発になる。

#### 2) プロジェクト目標

アセセワ地区の住民・産業に、電気を安定供給できるようにする。

#### 3) 成果

a) 103.3kmの送電線を敷設する。

b) 変圧器を設置する。

c) 低圧配電線網を整備する。

d) 送電線設備を適切に維持管理できる体制を整備

する。

#### 4) 投入

##### 日本側

E / N 供与限度額 5.07 億円

##### ガーナ側

送電線敷設予定地の測量・整地

低圧配電線網建設

ローカルコスト

## 3. 調査団構成

JICA ガーナ事務所

( 現地コンサルタント : Quans Inter-Continental Associates に委託 )

## 4. 調査団派遣期間( 調査実施時期 )

1998年8月5日 ~ 1998年10月26日

## 5. 評価結果

### (1) 効率性

計画から建設完了に至る過程は、鉱山・エネルギー省、ECG、及び日本側関係者の相互協力によりおおむね円滑に実施された。設計にあたっては、ECGの既存施設や技術と合致するように、またガーナ側で保守管理や部品交換が行えるよう配慮された。ガーナの国内業者の活用や資材の現地調達も最大限実施され、木製電柱の現地調達が当初計画より3か月遅れた以外は予定どおりに進行した。

### (2) 目標達成度

電線網や変圧器の設置は完了し、設備の管理状態は良い。施設完成後5か月しか経過していないため、現時点では対象21村落のうち、アセセワ村の471世帯へ

の電力供給が開始されたのみであるが、今後順次残り20村へも電力供給されていくことが期待される。

### (3) 効果

アセセワ地区の事業者(溶接、縫製、理容・美容業など)へのインタビューでは、多くの者が、電力が供給されたことによって、営業時間の増加、電動式装置導入などの設備改善など、事業を拡大する予定であると答えた。外部からの商人の同地区への流入も増加しており、電化によって商業活動は活発化している。

また、夜間照明の普及による地域の安全向上、ラジオの聴取時間増加による情報へのアクセス改善など、電力供給を受けた住民は生活水準の向上を実感している。

### (4) 計画の妥当性

本プロジェクトは、全国電化というガーナ政府の政策に合致しており、電化に対する住民のニーズも高いため、妥当性は高い。

### (5) 自立発展性

本プロジェクトの実施に伴い、ECG アセセワ地区事務所が開設され、30人のスタッフで送電線施設を管理していくことになった。今後、同施設は利用者からの電気料金と ECG の地域予算で管理・運営されていく予定である。



新しく設置された変電機



村落に建てられた電柱